

原 文 (指摘事項・指摘事由)

修 正 文

発展 「冷戦」のもとでの世界	学習指導要領の「内容」の(5)キ「第二次世界大戦後、国際社会に復帰するまでの我が国の民主化と再建の過程や国際社会への参加について、世界の動きと関連させて理解させる」に示す内容を学習指導要領に示していない内容として取り扱っており、不適切である
	.

(「発展 冷戦のもとでの世界 20世紀なかごろの世界」は、「深める歴史11 冷戦のもとでの世界 20世紀なかごろの世界」というテーマ学習として、該当箇所におく。)



「冷戦」のもとでの世界

20世紀なかごろの世界

東西世界の対立

第二次世界大戦後、ヨーロッパやアジアの各地で占領地区の管理や復興支援をめぐってアメリカ・イギリスとソ連との対立がおきました。その結果、世界はアメリカを中心とする資本主義国家群(西側)とソ連を中心とする社会主義国家群(東側)に分かれ、対立するようになりました。

「冷戦」の激化

1950年に朝鮮民主主義人民共和国は、ソ連の軍事力を背景に南進をはじめました。アメリカは国連軍の中心として大韓民国を全面的に支援し、東西の対立は戦争(朝鮮戦争)へと発展しました。核戦争となる危険もありましたが、1953年に休戦協定がむすばれて、いちおうの終結をみました。

1961年には、東ベルリン市民の西ベルリンへの流出をふせぐため、西ベルリンの周囲に壁(ベルリンの壁)がきずかれました。このため、西ベルリン市民は東ドイツのなかに孤立することとなりました。



ベトナム戦争 戦争の終結までに、アメリカ軍は5万8千人もの死者を出しました。

1962年、ソ連はキューバの社会主義政権を支持し、ミサイルを持ちこもうとしました。これをとめるために10月24日、アメリカはキューバの海上を実力で封鎖し、アメリカとソ連のあいだに核戦争の危機が高まりました(キューバ危機)。国連事務総長の調停があつて、28日にソ連が「攻撃兵器の撤去」を発表し、危機は回避されました。このできごとは「核戦争にもっとも近づいた日」といわれています。

ベトナムではアメリカの支援する南ベトナムと北ベトナムの支援する解放民族戦線とのあいだで内戦がおこり、アメリカは1965年からこの内戦に介入しました(ベトナム戦争)。解放民族戦線はソ連・中国の支援も受けて、はげしい戦いになりました。1973年にアメリカは敗北し、ベトナムから撤退しました。

核兵器の開発

冷戦の激化とともに東西の二つの国家群の対立が明らかになり、軍事力の増強がはかられました。

なかでも、核兵器の開発がきそわれ、公海でも原子爆弾や水素爆弾の爆発実験がおこなわれたため、被害がひろがりました。

核兵器はアメリカが第二次世界大戦の末期に開発し、1945年に広島・長崎に投下して、威力が知られましたが、その後、ソ連が「平和を守るため」という名目でこれを持ちました。このことにより東西の対立は米ソの「核の傘」のもとでの対立になったのです。1960年代にはフランス、イギリス、中国も核兵器をもつようになりました。

「冷戦」のもとでの世界

20世紀なかごろの世界

◆東西世界の対立

第二次世界大戦後、ヨーロッパやアジアの各地で占領地区の管理や復興支援をめぐってアメリカ・イギリスとソ連との対立がおきました。その結果、世界はアメリカを中心とする資本主義国家群(西側)とソ連を中心とする社会主義国家群(東側)に分かれ、対立するようになりました(冷戦)。

◆「冷戦」の激化

1950年に朝鮮民主主義人民共和国は、ソ連の軍事力を背景に南進をはじめました。アメリカは国連軍の中心として大韓民国を全面的に支援し、東西の対立は戦争(朝鮮戦争)へと発展しました。核戦争となる危険もありましたが、1953年に休戦協定がむすばれて、いちおうの終結をみました。

1961年には、東ベルリン市民の西ベルリンへの流出をふせぐため、西ベルリンの周囲に壁(ベルリンの壁)がきずかれました。このため、西ベルリン市民は東ドイツのなかに孤立することとなりました。



ベトナム戦争 戦争の終結までに、アメリカ軍は5万8千人もの死者を出しました。

1962年、ソ連はキューバの社会主義政権を支持し、ミサイルを持ちこもうとしました。これをとめるために10月24日、アメリカはキューバの海上を実力で封鎖し、アメリカとソ連のあいだに核戦争の危機が高まりました(キューバ危機)。国連事務総長の調停があつて、28日にソ連が「攻撃兵器の撤去」を発表し、危機は回避されました。このできごとは「核戦争にもっとも近づいた日」といわれています。

ベトナムではアメリカの支援する南ベトナムと北ベトナムの支援する解放民族戦線とのあいだで内戦がおこり、アメリカは1965年からこの内戦に介入しました(ベトナム戦争)。解放民族戦線はソ連・中国の支援も受けて、はげしい戦いになりました。1973年にアメリカは敗北し、ベトナムから撤退しました。

◆核兵器の開発

冷戦の激化とともに東西の二つの国家群では、米ソを中心に軍事力の増強がはかられました。なかでも、核兵器の開発がきそわれ、公海でも原子爆弾や水素爆弾の爆発実験がおこなわれたため、放射能汚染の被害が問題となりました。

核兵器はアメリカが第二次世界大戦の末期に開発し、1945年に広島・長崎に投下して、威力が知られましたが、その後、ソ連が「平和を守るため」という名目でこれを持ちました。このことにより東西の対立は米ソの「核の傘」のもとでの対立になったのです。1960年代にはフランス、イギリス、中国も核兵器をもつようになりました。



第二次世界大戦後の独立国 1960年にはアフリカで17か国が独立し「アフリカの年」とよばれました。

第三世界と南北問題

第二次世界大戦後、アジアやアフリカ、南アメリカの国々に独立があいつぎました。1955年にインド、インドネシア、ビルマ(ミャンマー)、パキスタン、中国、エジプトなど29か国の代表がバンドン(インドネシア)に集まり、反植民地主義、平和共存などをうたった「平和10原則」を採択しました。

1960年代からは植民地支配に苦しんだ国

ぐにがあいついで独立し、これらの国はアメリカやソ連のいずれの陣営にも属さない独自の立場を明らかにし、「第三世界」とよばれました。しかし長いあいだの植民地支配で、産業や経済の発展は遅れ、国民の生活は苦しいものでした。このように南半球に多い発展途上国とアメリカやイギリス・日本など北半球に多い先進国との経済格差を「南北問題」といいます。

左：朝鮮戦争 南北朝鮮の国境付近。



右：ベルリンの壁の構築 東ドイツの監視隊に監視されながら、壁をつくっている様子。



左：アジア・アフリカ会議(バンドン会議) 1955年4月におこなわれました。



右：キューバ危機 1962年10月、ソ連の輸送船に近づくアメリカ海軍の船(手前)



第二次世界大戦後の独立国 1960年にはアフリカで17か国が独立し「アフリカの年」とよばれました。

◆第三世界と南北問題

第二次世界大戦後、アジアやアフリカの国々に独立があいつぎました。1955年にインド、インドネシア、ビルマ(ミャンマー)、パキスタン、中国、エジプトなど29か国の代表がバンドン(インドネシア)に集まり、反植民地主義、平和共存などをうたった「平和10原則」を採択しました。

1960年代からは植民地支配に苦しんだ国

ぐにがあいついで独立し、これらの国はアメリカやソ連のいずれの陣営にも属さない独自の立場を明らかにし、「第三世界」とよばれました。しかし長いあいだの植民地支配で、産業や経済の発展は遅れ、国民の生活は苦しいものとなりました。このように南半球に多い発展途上国とアメリカやイギリス・日本など北半球に多い先進国との経済格差を「南北問題」といいます。

左：朝鮮戦争 南北朝鮮の国境付近。



右：ベルリンの壁の構築 東ドイツの監視隊に監視されながら、壁をつくっている様子。



左：アジア・アフリカ会議(バンドン会議) 1955年4月におこなわれました。



右：キューバ危機 1962年10月、ソ連の輸送船に近づくアメリカ海軍の船(手前)

